



コロナ危機を乗り越え、憲法に基づき、働く者、国民の命と暮らしを守る社会を実現していく

佐藤義見 新執行委員長

組合員、家族の皆さん



コロナ禍の中、組合の運動にご協力、ご支援をいただいていることに感謝を申し上げます。第12回CU本部大会において、執行委員長となりました佐藤と申します。

このような情勢の中、大会を成功させ、一年間の運動方針を確認いたしました。CU全体の運動は、365件の労働相談、1412人の組織となり、相談内容のトップは「解雇、雇い止め、退職強要」などであり、例年通りでした。最低賃金の引き上げを訴えることも今年度の運動の重点となります。

「コロナ危機を乗り越え、憲法に基づき、働く者、国民の命と暮らしを守る社会を実現していく」大会決定をにぎってはなさず、早期の1500人実現と3000人CU東京をめざし、組合員の皆さんとご一緒に奮闘していきたいと思えます。

「文京最賃デモ」

7月11日、第4回「文京最賃デモ」が行われました。新型コロナウイルス感染症が収まらず、まだ梅雨のさ中のデモでしたが、32人が元気よくシュプレヒコールをあげて行進しました。

年一回のデモですが4年目の今年は、事前に文京区議会への請願の取り組みもしっかり行い、深化した取り組みとなりました。

CU東京文京支部は「文京最賃デモ実行委員会」の一構成団体ですが、うちの組合員の中には正に最低賃金そのもので働いている組合員、そうとう熟練がいる仕事なのに1500円に満たな



い時給で働く組合員などたくさんいます。そうした組合員がこのデモに自分の要求として参加してくれないかなあ〜。と考えています。

(山田三平)

支部大会が開かれました

みなと支部



7月18日、コミュニティユニオンみなと(CUみなと)は第11回定期大会を開催しました。新型コロナウイルス感染者が増えている中、「定期大会の議案骨子」を事前に全組合員に配布し、可能な限り「委任状」での参加をよびかけておこなわれました。

大会は、高橋書記長から「コロナ禍」の大会での出席状況について報告し、確認を得、大会議長に青木さんを選出しました。

大会は池田委員長のあいさつで始まり、コミュニティユニオン東京の高木書記長の激励あいさつ、港区労連議長の清水さんの連帯あいさつがありました。議案提案は高橋事務局長が行いました。1年間の活動報告では労働相談活動や団体交渉などの現状を詳しく報告。

前大会で掲げた組織拡大目標「60人の組合」は達成できなかったものの8人の組合員を迎えました、残念ながら7人の組合員が脱退し、1人増にとどまりました。100人のCUみなとを展望し、協力組合員を含め次期大会までに60人のCUみなとをめざし、労働相談活動などの活動方針を確認しました。新三役は以下のとおりです。

執行委員長 池田孝治
副執行委員長 青木一夫 川崎悟
植松富美枝 小川均(新)
書記長 高橋孝

渋谷支部

CU渋谷支部は7月19日、笹塚区民会館において第9回定期大会を11名の参加で開催しま

した。

来賓あいさつに代えて渋谷の共闘6団体よりメッセージをいただき、コロナ禍の中で感染防止のため縮小し行いました。大会委任状の「一言メッセージ」は33名の方々から、近況報告と激励を頂きました。

本部来賓の川村書記次長より「困ったときの相談できる場としての労働組合の存在を知らせていこう、渋谷は女性が多い、人の命や心のひだに寄り添える女性の細やかさをいかし、CU東京1500人達成に向け、ぜひ力を尽くして欲しい」と激励の挨拶をいただきました。5月に失業した組合員から、「社会資源を使って生活していかなければならない。コロナで失業者が増えている。CUは困難な人達の力になって欲しい」と厳しい現実が語られました。協力組合員からは「決算の教育・宣伝費がゼロだったことは残念。CUの活動で手伝えることをやっていきたい」との頼もしい発言があり、大会後、知人にCUを紹介し加入用紙を渡したとの情報が入り、加入にも繋がっています。

区労連専従不在、相談を中心的に担う相談員の不在と、厳しい状況は続いています。渋谷らしさを失わず、来年10周年に向けて、一歩二歩と前進をめざします。組合員は昨年比2人増の173人。



執行委員長 海崎治代
副執行委員長 松浦由紀子
書記長 田辺勝彦
執行委員 新井桂子 酒井大 清見暁
丹野典子
特別執行委員 伊藤栄江

文京支部



7月19日（日）午後から文京区民センター（通常470名定員会議室）において、椅子・テーブルなどは消毒の上、「蜜」状態にならないようテーブルを配置、ひとりでも入れる個人加盟の労働組合であるコミュニティユニオン東京文京支部第11回定期大会が行われました。

「最低賃金1500円を求め、文京支部200名を目指して」をスローガンに、幅広い年代構成での定期大会となりました。冒頭の挨拶で小川富弘委員長は「組合員の助け合いと、交流や学習を通して、信頼と団結を強めていこう」と呼び掛けました。

昨年の定期大会は組合員が100名を突破しての大会だったのですが、今回は嬉しいことに127名と大幅に組合員が増えての定期大会となりました。執行部提案の総括・方針、次期執行部体制のすべてを確認し閉会しました。

執行委員長	小川富弘
副執行委員長	遠藤弘幸 益子茂
書記長	山田三平
書記次長	湯本弘美
執行委員	登尾純一 岩永有礼 山岸恒子
	須賀和男
特別執行委員	伊藤弘 桑島聡

三多摩協議会

三多摩協議会第6回定期大会は、コロナ感染増の中、8月2日（日）に国分寺労政会館で規模を縮小し23人参加で開催しました。

冒頭、佐藤委員長は「結成6年、こんな形で

の開催となったが、この5年で150件の労働相談、300人近い組織に発展した事等、皆さんに感謝したい。今後も組合の必要性、役割を發揮していきたい」と挨拶。

またCU本部の高木書記長、顧問の白根弁護士からも激励挨拶を受け議案提案、財政報告の後、討論を行いました。

多摩稲城分会からは「障害者の権利シンポを開催した事」、清瀬東久留米分会からは「毎月の駅宣も中断しているが、9月から再開スタートする決意」、分会活動への財政支援について「本部からの支援は」の発言もありました。スクールソーシャルワーカーの雇用問題に地域の署名運動も起こったが、未だ解決できていないとの発言、さらに障害者雇用の就労現場からの発言、ジェンダー問題の提案等、6人の討論を受けて三宅書記長が答弁しました。分会への財政支援は本部高木書記長が「現状では困難だが、財政強化をはかり、一層役割が發揮できるようにしたい」との見解も表明されました。



この後、議案の一括承認と新執行部を拍手で承認。新役員では委員長に宮田清志さん、副委員長に鶴岡誠一さん、執行委員に近藤初雄さん等28人の執行体制が確認されました。女性役員は3人でした。

執行委員長	宮田清志
副執行委員長	尼崎学 大江拓実 小野塚洋行
	佐藤義見 鶴岡誠一
	福田かづこ 星憲彦
書記長	三宅一也

練馬支部

コロナ禍、大会開催を検討してきましたが、コロナ感染の影響で、組合活動が自粛する中、こんな時期だからこそと、8月21日、土建練馬支部会館で、開催しました。



来賓に本部高木書記長、練馬坂尻区議 練馬労連、土建練馬支部からそれぞれ書記長から、連帯のご挨拶を頂きました。目標80名に向けて、駅頭宣伝や交流会などに取り組んできました。また、練馬労連との共催、地域民主団体への呼びかけ、宣伝など拡大へ繋げる学習交流会を、企画検討して来ましたが、コロナで止む無く中止、加えて古くからの組合員の脱退など、目標が達成出来ない結果となりました。討論では、職場でのパワハラと、それに関連して、了解なしの役職変更を辞めさせたA氏の経験や、介護ヘルパーで働く方から、コロナ禍での、介護職場の厳しい実態などの発言がありました。組合の力で「地域の労働者を守る」改めてCU東京の必要性を確認しました。

若返る執行部に期待し、今年度から書記長が交代、更に若い執行委員を加え新体制で、100名の早期実現に向けて、拡大駅頭宣伝の継続、労働相談件数増、相談員の拡充、積極的な懇談を行い協力組合員を拡大など、活動方針が採択されました。

執行委員長 金田安夫
副執行委員長 市瀬正樹
書記長 清本紀之

各支部奮闘しています

コロナ禍での労働相談

江東支部

地域労組こうとうにはこの間、新型コロナウイルス感染症による緊急事態宣言が発出された直後から労働相談が急増し、8/1現在60件（うちコロナ関連30件）を超える労働相談が寄せられています。その中で特徴的な二つの事例をご紹介します。

【テーマパークでの雇い止め事件】

長崎県のテーマパークで派遣社員として働くAさんはコロナでテーマパークが休園になったことで、3/31に突然雇い止めと寮の追い出しにあい実家がある東京に戻り、組合に相談・加入しました。Aさんは当初派遣先担当者か

ら5/31までは契約を更新すると口頭で伝えられていたため、2ヶ月分の休業手当の支払いを求めて団体交渉をしました。しかし会社は契約を延長の合意はないとして休業手当の支払いを拒否しました。最終的に3月分までの休業手当を100%支給することで合意しました。

【飲食店での整理解雇事件】

飲食店で経理担当の正社員として働くBさんはコロナの影響で、4月から店舗が休業となり、テレワークになりました。5月に入り社長から現在の店舗を閉鎖し、本社機能を親会社に移すため、経理部門が廃止されるとして解雇通告をされました。団交の際、雇用調整助成金を活用し、雇用継続を求めましたが、社長は辞めて欲しいの一点張りだったため金銭を支払うことで合意しました。

久しぶりに宣伝を実施

中野支部

中野支部は毎月、土曜の午後に中野駅前で行って来ました。4月からはコロナや雨で中止をしましたが、8月8日、久々に実施しました。9人が参加しました。



「コロナ禍で働く者の生活が困難になり、解雇や雇い止めが増えていきます。働く権利と暮らしを守るために、CU組合に入って一緒にたたかきましょう」「最賃の審議会が、引き上げゼロの答申を出しました。これでは生活できません。最賃を全国一律にして、時給1500円に引き上げましょう」と訴えました。また「CU中野支部は解雇や雇い止めや賃金未払いなどを、団体交渉などで解決してきました。ぜひ加入してください」と呼びかけました。

■全労連は議長に女性の小畑雅子さん、事務局長に黒澤幸一さんを選出、事務局長は「コロナ禍で労働組合に入り、雇用を守ろうという流れが大きくなっている」とのべた、期待したい。■中央最賃審議会は、「現行水準が適当」と「目安額」も示さない、安倍政権、財界等は「今は雇用を守ることが最優先」と言う、600万人が休業、解雇は5万人超えた。声を上げよう。■支部大会が開かれている。いくつかに参加、ちよだでは闘っている仲間の発言がつづいた。励まされた。学ぶことが多い。■今号から「こみゅーと」編集長が寺川知子副委員長にバトンタッチ。こちらも初の女性。紙面も改善されることは間違い無い。引き続き原稿の協力をお願いしたい。